

## 渡良瀬遊水地保全・利活用協議会 第4回合同部会 議事要旨

日 時：平成27年6月24日（水） 15時00分～16時35分

場 所：栃木市藤岡遊水池会館 2階中会議室

出席者：別紙出席者一覧表（構成員：44団体中32団体（45名）、

オブザーバー：4団体中2団体（2名）が出席）

## ＜議事要旨＞

※部会については、栃木市と小山市が交互に事務局を務めることとなっており、本会は栃木市が担当。栃木市遊水地課與澤が司会進行。

## 1. 開会

司会より開会の辞。

## 2. 挨拶

※部会長を務める栃木市遊水地課荒川課長より。

- ・3月の部会でサンプル版を作成し、5月に普及啓発の活動を行った。
- ・部会を1年間開催してきて、今後どうするかを考えるときにきている。
- ・年度が変わり初めての部会であり、行政関係は組織の改変や人事異動などで担当が変わっているので自己紹介をお願いしたい。  
また、自治会の方も変わっていますのでご紹介する。

## 3. 議事

## (1) マナーパンフレット（サンプル版）の結果報告（資料1）

平成27年5月3日（日）午前10：30～12：00頃

渡良瀬遊水地周辺の5箇所にて実施

参加者 31名、配布枚数 約700枚

マナーパンフレット（サンプル版）への意見の紹介

当日の参加者の感想・意見

## ○渡良瀬遊水地を守る利根川流域住民協議会 猿山氏

- ・谷中湖周辺の活動に参加。家族連れでバーベキューをしている方達が30～40組位いた。
- ・皆、とてもいい取り組みだと気持ちよく受取ってくれたが、他のことをしていたため、後で読んでおきますとのことだった。
- ・谷中湖をウォーキングしている方から椅子が欲しいという話を聞いた。

○小山市 渡良瀬遊水地ラムサール推進課 岡部氏

- ・桜堤の活動を行った。観察会をしていた団体などにも配布した。
- ・今までたぶんなかったことなので、良いことだと思うとの感想をいただいた。

【議長より】

サンプル版とはいえ、皆さんの意見を聞いて作った物を配布したのは部会のひとつの活動として、有意義なものだった。

しかし、サンプル版のままではなく、今後どうするのか部会の大きなテーマでもある。

掲載の内容・写真や絵などやマナーパンフレットの形状・大きさについてもまだ考慮の余地がある。

費用の面でも、誰がどのように負担するのか、制作する時期は、また原稿はどうやって決定するのか、制作後の周知方法にしても、どのように行っていくのかなど、様々な意見があり集約されていないのが現状。

○わたらせ未来基金 内田氏

- ・遊水地内に看板を掲げるとい話もある。
- ・マナーパンフレットに動植物の持ち込み・持ち出しについて書いてある。釣り人が自分で釣るためにか、他で釣った魚を放したという話を聞いて、そういったことはやめてほしいと話した。
- ・野鳥なども、子育ての時期は敏感であるため、その時期はそういった場所に入らないことを明記したり、看板を立てたりして周知すれば相乗効果もあるのではないか。

【議長より】

例えば、高速走行するのは自転車だけでなくインラインスケートなど他のものもある。

釣りの話しもあったが、釣りの時に出る釣り糸や釣り針、ルアーなどのごみは野生生物への影響だけでなく、水辺の観察会の時など危険である。

野鳥への配慮として、場合によっては立入の禁止の場所や時期などを考える必要がある。

サンプル版へ意見のあった、犬のリードのこと、糞のことも問題である。

安心して利用するためには、緊急時の連絡についての周知も表記してもいい。

サンプル版をたたき台として、さらにより良い成果品をつくるためにアンケート調査を行い、幹事会で諮り次回の合同部会までに意見をまとめたい。

○渡良瀬遊水地関連地域活性化協議会 落合氏

- ・自転車愛好家の方に、マナーがなっていないと言われた。
- ・自分は知らなかったが、渡良瀬遊水地は反時計回りに走ると言われた。

【議長より】

渡良瀬遊水地スポーツ利用者連絡協議会から出している「利用ルール&マナー」の中で、自転車の走行は反時計回りと表記されている。しかし、団体に所属していない個人の利用者の中には知らない人もいる。そういった方にも周知していかなければならない。

改めてアンケートをとり、意見を集約した中で幹事会が中心となって作成の仕方、予算の面、作成の時期、等次回の合同部会のなかで提案し、意見をいただきたい。

(2) 今後の部会の進め方

【議長より】

来月には合同部会、8月3日には協議会の開催が決まっている。ご足労願いたい。資料4の年間スケジュール(案)では9月から遊水地保全・再生部会を開催する予定となっている。

4つの部会で進めていくことは決定事項ではあるが、昨年1年間やってみて賢明な利活用部会一つしか開催できなかった。4つの部会を並行して進めていくのは現実的には難しい。今までの進め方で良いのか。再構築を考える時期に来ていると思う。部会の進め方についてもアンケートで意見を伺いたい。

歴史・スポーツ・自然などに細分化して部会をつくる、などいろいろな考え方があがる。参加しやすいテーマ、具体的なテーマを模索したなかで考えていったらいいと思う。一年間の活動を振り返ったうえで、進め方を変えた方がいいのであれば、その方法を再構築していかなければならない。

○渡良瀬遊水地野鳥観察会 一色氏

- ・当初の資料もないので、持ち帰って考えたい。また、事務局に案があるのであれば示してほしい。
- ・次回だけでなく、この件だけを考える部会を2～3回開催する必要がある。

【議長より】

部会の大きな目的は情報交換・情報共有であった。しかし、何をどこまでやるのか、あいまいな部分が多い。

マナーパンフレットを作っているというのは、一つの成果ではある。

栃木市、小山市、幹事会だけの意見ではなく、構成員の意見も反映させていきたい。

○渡良瀬遊水地を守る利根川流域住民協議会 猿山氏

- ・最初に4つの部会を立ち上げた時点で、どれも関わってきってしまうので分けること自体が無理かなと団体では話していた。常に誰かが部会に出なくてはならないとならない。

自治会にしる、治水団体にしる関係してしまうし、いろんな方と話し合わないと進まない。2ヶ月に1回でもいいし、時間が足りないなら3時間かけてもいい。その場で議論を戦わせられるようになって行けばいいと思う。

【議長より】

貴重なご意見ありがとうございます。

1年間部会に出席いただいて、治水関連の方は部会のあり方、ご意見等いかがでしょうか。

○渡良瀬遊水地第2調節池周辺地区治水事業促進連絡協議会 米田氏

- ・思川、巴波川の周辺地区の住民の意見としてここに出席している。一日も早く掘削をして治水容量の確保をし、地域の安全安心な生活を送れるようになってほしい。

○コウノトリ・トキの舞うふるさと おやま をめざす会 浅野氏

- ・保全利活用協議会の性格付けは、当初情報交換をする場として始まった。幅広く多くの人が集まった中で情報交換だけで済むのか。遊水地をめぐる課題があった場合、忌憚なく意見交換をして良い方向を見出すことが、事前にはかなり期待されていたと思う。
- ・遊水地の現状を見た場合に、一番変化が大きいのは第2調節池で湿地保全・再生計画に基づいた掘削が進んでいて、毎年毎年状況が変わっていく。

今後10年、15年と掘っていったときに、第2調節池は劇的に変わっていくと思う。そういった中でセイタカアワダチソウやヤナギの除去作業に、小山市はかなりの市民を動員して作業を始めたが、こういった管理手法が本当に適切か、仮に良かったとしても活動を続けていけるかを考えたときに、小山市だけが作業をすればいいという訳ではなくて、4県4市2町の利害関係者が長続き出来る保全管理体制を考えていく必要がある。そのことについて、部会の中で議論できるのであれば遊水地にとっては非常に有意義なことである。

- ・緊急性のあるテーマ、重要なテーマについて保全利活用協議会の部会の中で議論を重ねて、協議会へ意見を挙げていく、という時期に差し掛かっているという思いはある。

○渡良瀬遊水地を守る利根川流域住民協議会 猿山氏

- ・情報交換の場だけなのか、決定権はなくともある程度のこと決められて、遊水地を管理している国交省と相談しながら、何が出来るのか出来ないのかを教えてもらいながら具体的な行動へと進めて欲しい。

【議長より】

今後進む方向性をきちんと決めていくと言う事で、マナーパンフレットの事について、今後の部会の進め方についてアンケートをとって、幹事会で協議し次回の部会に諮りたい。

#### 4. 情報交換

- 渡良瀬遊水地野鳥観察会 一色氏より情報提供  
世界的に貴重な鳥 オオセッカを大切に！（資料5）
- ラムサール湿地ネットわたらせ 楠氏より情報提供  
渡良瀬遊水地歴史自然ガイドマップ
- 栃木市遊水地課より情報提供  
7月3日は栃木市渡良瀬遊水地ラムサール条約登録記念日

#### 5. その他

##### 【事務局より】

- ・アンケートの回答依頼
- ・次回開催日（平成27年7月22日）の案内

#### 6. 閉会

司会より閉会の辞